

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス事業所「nicobase」		
○保護者評価実施期間	令和8年3月10日	～	令和8年3月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29人	(回答者数) 20人
○従業者評価実施期間	令和8年3月10日	～	令和8年3月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 10人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所では「どんなことも楽しいが基本」という理念のもと、発達に特性がある子供たちの将来を見据えた学習支援や施設外活動を行っています。	学習支援では、ポイント制や個別対応を取り入れ、子供たちが自分から学ぼうとする気持ちを引き出し意欲を維持できるように支援をしています。また施設外活動では、子供たちの「もっと知りたい」「体験したい」という気持ちを大切にしながら、実体験を通じて知識を深めることを目的に行っています。	学習支援では、学年や発達段階に応じた教材選定に加え、ICT教材(天神X)を活用し、視覚的理解や反復学習を通して基礎学力の定着を支援しています。また施設外活動では、自分の興味や適性を発見することができるように地元企業への職業体験を積極的に行っています。
2	当事業所では「相手への共感力や思いやりの心」を育成する目的で、地域の高齢者施設や専門学校等で様々なボランティア活動を行っています。活動を通して、他者と関わる経験を積み重ねることで、相手の立場や気持ちを考える力を育むとともに、社会性やコミュニケーション能力の向上を図っています。	子どもたちが楽しみながら笑顔でボランティア活動に取り組めるよう、訪問先の事前学習や訪問時の基本的なルール・マナーを学ぶオリエンテーションの時間を設けています。活動内容や関わり方についてあらかじめ理解を深めることで、不安の軽減や安心感につなげるとともに、主体的に参加できるよう支援をしています。	ボランティア活動後には、振り返りを通じた学びの時間を設けています。活動の中で感じたことや気づきを共有し、自分の関わり方や相手の気持ちについて考えることで、学びを深める機会としています。また、受け入れ先のニーズに応じたボランティア活動が提供できるよう、事前の情報共有や調整を行いながら、継続的な活動をしています。
3	当事業所では「自分で考え・決定し・行動する力」を育成する目的で、子供達が話し合いで決めた活動を行う日を設けています。 ※子供達が決めた活動例→調理体験・レクリエーション・外出等	子供達が話し合いを行う際は「自分の考えを伝える・相手の意見を尊重する」事ができるように、職員が対話の支援やルール理解のサポートをしています。	お金がかかる活動をする際は活動に使える予算を設定し、その限られた予算の中でアイデアを出し合ったり意見を交換することで計画性の向上・創造力の発揮・協調性を育む機会を設けています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	当事業所の弱みとして、専門的な知識や支援技術を有する人材の配置が十分とは言えず、支援の専門性のさらなる向上が課題となっています。	その要因として、専門職人材の確保が難しい地域特性や採用環境に加え、小規模事業所であることから人員配置に限りがある点が挙げられます。また、日々の業務が多岐にわたるため、専門性の高い研修機会の確保が十分でないことも一因と考えられます。	改善に向けた取り組みとして、専門的人材の確保・増員を進めるとともに、外部研修や内部研修の充実を図り、職員全体の専門性向上に努めています。また、ICTの活用や業務の効率化を進めることで、研修参加や自己研鑽の時間を確保し、支援の質の向上につなげていきます。
2	当事業所の弱みとして、職員の高齢化が進んでいる点が挙げられます。これにより、体力面や急な対応への柔軟性、支援体制の維持が課題となっています。	その要因として、若年層の応募者が少なく、将来を担う人材の確保が難しい採用環境にあることが挙げられます。また、福祉分野における人材不足の影響も受けられていると考えられます。	改善に向けた取り組みとして、ホームページやSNS等を活用した情報発信の強化や、求人方法の見直しを行い、若年層へのアプローチを強化していきます。また、働きやすい職場環境の整備や業務の効率化を図ることで職員の負担軽減に努めるとともに、研修の充実を通して人材の育成と定着を促進していきます。
3			